

# 「小金井かいわい」の二年

佐藤 和代

都心からちよつと（だいぶ、という声もある）はずれた、小金井市。この地に「小金井かいわい」ができて二年になります。ここは会員制の助け合いシステム。老人の介護を中心に、家事やベビースーツなど、生活の中でちよつと助けがほしいとき、気軽に頼めるところを地域の中につくろう、ということが発足したものです。

手助けがほしい会員は事務局に依頼します。事務局のスタッフがくわしい内容をきいた上でケアス

タッフ（手助けする人）に連絡し、双方が合意すれば手助け開始。ボランティアではなく、自給が支払われる「仕事」としての、手助けです。

と、それだけのシステムなのですが、説明するの、それだけの人は「よくそんなのつくったわね」と言います。「頼む人なんているの？ 働く人集まる？ 事故でもあったらどうするの？」。

はじめて計画を聞いたときは私だって少々危惧していましたが、ふたをあげたら依頼は毎月増えるば

かり、事務局スタッフが「受話器を置く暇がない！」と悲鳴をあげること。介護や家事を気軽に頼めるところがあったら、と思っている人がいかに多いか、実感したこの二年でした。

さて、私はここで働いているわけではないのですが、ずっと会報づくりのお手伝いをしています。依頼者やケアスタッフにお話を聞きにいったり、手紙や感想文を読ませてもらったりと、現場からちよつと距離をおいたところから「小金井かいわい」にかかわってきました。その中で出会った人たち、出会ったできごとについて、少し紹介したいと思えます。

はじめてのインタビュアーに伺ったのは、依頼者の第一号の、九十歳代の女性のお宅。この女性、身体は不自由ながら、なんとシャキツとしていること！若い頃は画家を目指して勉強していたそうで、〇〇

さんはね、あのとき〇〇先生がね、と何気なく口にされる人が、美術史の教科書にのつてるような人物ばかりだったりして。うーん、このマンション（私の家のすぐ近くで、いつも前を通っていた）はこんな人を抱え込んでいるのだ、と妙に感心して帰ってきました。

このお宅に入っているケアスタッフが「介護って、暗くもないし、きたなくもない仕事なのよ」と言ってたけど、本当。老人介護のイメージがちよつと変わりました。

もちろん明るい話ばかりではない。痴呆のある方をかかえている家族など、本当に困ってから人を頼む、といえます。ケアスタッフが行ってみると、よく暴れて手がつけられなくなるという痴呆症のご老人がいて、ふすまも障子もボロボロだった、というケースも。

でも、ここにはいったケアスタッフは「私は痴呆のある人の介護が一番好き」と言っていました。痴

呆のある人は、感情的にはとても豊か。だから、その方の空想（妄想）の世界につきあって、話をあわせながらお世話するのは楽しい、のだとか。もと教師だったその方が、ケアスタッフを生徒扱いされるので、ずっと生徒のふりをして通したそうです。話をとことん聞く、間違いを指摘しない。徘徊されるときなどは少し離れてついていく。そういうことは家族には難しいけれど、他人ならできます。それで問題行動はだんだん減るものだし、家族の方には喜ばれるし……だから好きなの、と言っていました。

このケアスタッフだけではなく、働いている人からお話をうかがうと、何となく平和に暮らしている（？）私など、いつも頭の下がる思いです。痴呆の老人をかかえて十年以上苦労したから、そういう方のお役に立ちたいと思って、という人。家事だけのつもりで入ったけれど介護の大切さに気づき、本格的に勉強を始めたという人。

あるスタッフは、息子さんを筋ジストロフィーで亡くされた後、この仕事を始めました。大きな体の息子さんをずっと世話してきたこの方、お年寄りを軽々と車椅子に移して介護されています。

「主婦が自分の都合のいい時間だけ働くななんて、仕事というものを甘く見ている」という批判を時々耳にします。でも、ひとりひとりのケアスタッフを見ると、なんのなんの、企業でバリバリ働く女性に（男性にも）ひけをとらないわよ、と思うのです。

少し話が介護にかたよりすぎたでしょうか。実は依頼される仕事の中で「介護だけ」というのは少数。一番多いのは介護と家事を両方やって、という依頼です。公的機関から派遣されるヘルパーや看護



婦さんは、原則として家事はしないことになっていきます。訪問看護の方がきて、シーツを換え、清拭をされて、さっぱりした。……のはいいけれど、さてそのシーツやタオルの洗濯は誰がするの？ いきおい、民間のグループから派遣されるスタッフには家事を頼むことになるようです。

「食事の支度をお願い。老人食と、ついでに家族の普通食も作って」。

「腰が痛くてふき掃除ができないので、掃除だけ頼みます」といった依頼がよくはあります。

そして、まったく介護と関係のない依頼も山ほど。会報には、「今月こんな手助けがはりました」というコーナーがあるのですが、ここからちよつと抜粋してみます。

\* 独り暮らしの男性宅で、料理づくり。一度にたくさんつくって、冷蔵庫にいれていく（外食って、あきますよね……）

\* 赤ちゃんを、朝病院に連れていってから保育園に

送っていく（通院が長引くと、毎日遅刻してばかりはいられない。切実です）

\* 旅行中の犬や猫のお世話（動物好きのスタッフに人気の仕事）

\* 主婦が入院している間の家事全般（うんうん、我が家だつてきつと困る）

\* 二年間そうじしなかつた部屋のおそうじ（！）

\* 小学校の移動教室の説明会に代理で出て、報告書を書いてわたす（……）

\* 夜間のトイレ介助（泊まり込み。たまには家族もぐつすり寝たいですね）

ほかに、引越し手伝い、通訳、ワープロ打ち、衣類の手直し……。手助けしてほしいことっていろいろあるものだと感心してしまいます。

「小金井かいわい」の便利屋稼業、フットワーク軽く、今日もかいわいを走り回っています！